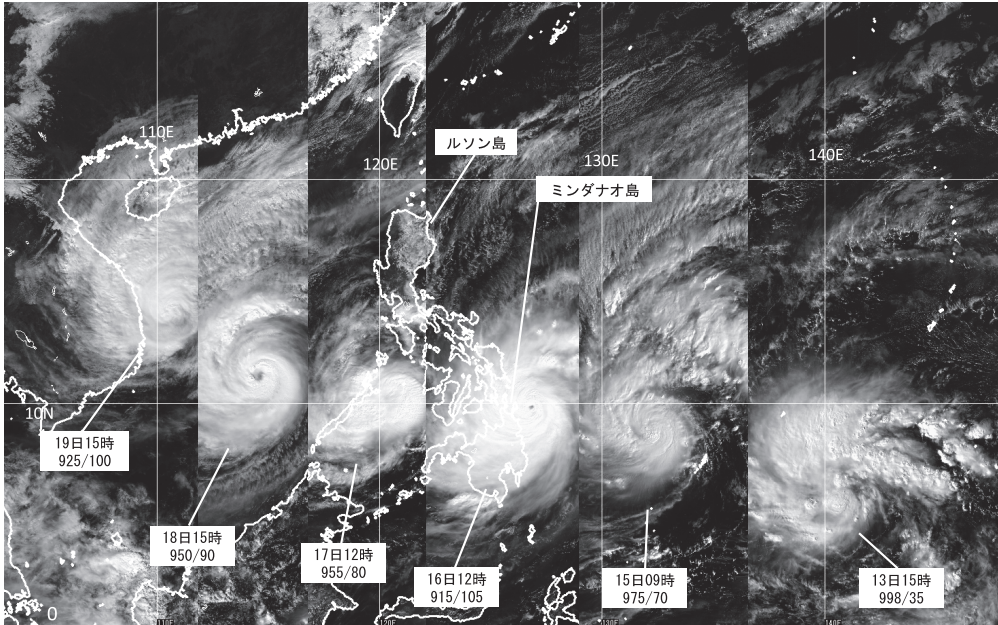


今月のひまわり画像—2021年12月

ミンダナオ島の東と南シナ海で急速に発達した台風第22号



第1図 2021年12月13日15時～19日15時（日本時間）の可視画像の合成図。日時の下の数字は、左が台風第22号の中心気圧（hPa）、右が最大風速（kt（1kt≒0.51m/s））。

2021年12月13日15時（日本時間）、カロリン諸島で台風第22号が発生し、発達しながら西進してフィリピンを直撃した。第1図は、第22号の発生（13日15時）から19日15時までの可視画像を合成したものである。15日09時に975hPa（以下、速報値）であった中心気圧は、フィリピンに上陸直前の16日12時にはミンダナオ島の東で915hPaまで急速に発達した。同時刻の衛星画像では、15日09時と比べ台風を取り巻く対流雲域は大きくなり、円形状の雲域が形成され、非常に小さくシャープな眼が確認できる。台風の眼は、境界がはっきりして引き締まって小さい方が最大風速が強いことから、かなり発達しているのがわかる。台風は最大風速105ktの猛烈な勢力で16日午後、フィリピンに上陸し、その後勢力を落として17日にはスル海を西進して同日夜には南シナ海へ進んだ。

台風は南シナ海を西北西へ進みながら、18日夕方から再び急速に発達し、19日03時には中心気圧915hPa、

最大風速105ktと再度猛烈な強さにまで発達して進路を北へ変えた。その後は、徐々に勢力を落としながら北上し、20日21時に南シナ海で熱帯低気圧に変わった。

2013年にフィリピンに甚大な被害をもたらした台風第30号が11月に発生するなど、この時期、この地域に発達した台風が襲来することは決して珍しくはないものの、12月に中心気圧915hPa以下となった台風は、1951年の統計開始以来7個と多くはなく、ベトナム沖で同勢力まで発達した台風は、1951年以降初めてである。また、同じ台風がミンダナオ島の東と南シナ海の二つの海域でそれぞれ急速に発達し、いずれも猛烈な強さの勢力になることはかなり珍しいと思われる。

12月に発達したこの台風第22号は、フィリピンに洪水や家屋の倒壊など大きな被害を及ぼし、フィリピン災害対策当局によると、12月31日の時点で死者は405名とされている。

（気象庁大気海洋部予報課 河野麻由可）